

「グローバル社会に対応する女性研究者支援」プロジェクト
<http://www.erp.sophia.ac.jp/Projects/wrsupport/>

NEWSLETTER

目次：

- 女性研究者支援について思うこと P.1
- 第12回キャリアコロン開催：“ロールモデル”について語ろう！ P.1
- お知らせ：2011年10月に実施したアンケート調査の結果が報告書になりました！
無料配布中 P.1
- 学術成果発信セミナー開催：「欧州の研究環境と日欧連携の強化」について市岡利康氏（日欧産業センター）による講演会 P.2
- 2011年度 女性研究者ロールモデリング国際シンポジウム「世界に並び立つ女性研究者たち-事業成果報告を踏まえて-」を開催 P.2

女性研究者支援について思うこと 理工学部教授 荒井隆行



本プロジェクトが始まって以来、私の研究室でも女性研究者が何人もお世話になりました。メンター制度による相談から、英語での情報発信に関する講習や英文添削、短期留学に至るまで、その内容は様々です。コモンスペースも頻繁に活用させていただいてきました。そうする中で私自身も双子の父となり、育児と仕事の両立が始まりました。ちょうどそのとき、本プロジェクトの支援の輪が子育て中の男性研究者にまで広がり、幸い私にも研究支援員を付けていただけることになりました。大変感謝していると同時に、その意義の大きさも実感しました。私がプロジェクトを通じて学んだことは、次のようなことです。大きな意味で女性研究者を含む働く女性の環境が改善されれば、単に仕事の質が向上するだけでなく、パートナー間でも心身

にゆとりが生まれ、結果的にお互いの過度な負担が軽減されるという好循環が生まれます。“QoL (Quality of Life)”という言葉がありますが、労働環境はQoLを大きく左右します。男性も「もっと家庭に…」との思いを強く抱いており、男女を問わず労働環境が改善されることで、女性もさらに働きやすい世の中へと変わるのではないのでしょうか。日本が国際的に遅れている中、そのような大きな流れを変えていくきっかけをこのプロジェクトは与えてくれたのです。そして、上智大学の中でも、本プロジェクトが「男女共同参画」という理想的な形へと発展的に前進することを喜ばしく思っています。

第12回 女子学生キャリアアップ支援 コロキウム「“ロールモデル”を語ろう」開催

2011年12月21日(水)、「“ロールモデル”を語ろう」と題した女子学生キャリアアップ支援コロキウムが開催されました。このコロキウムは、2009年にスタートした上智大学女性研究者支援事業の取り組みの一つであり、今回が最終回となりました。今までのコロキウムでは本学理工学部の女性卒業生の他宇宙飛行士の山崎直子氏などもロールモデルとして招き、研究機関や民間企業における体験談や、学生時代についての講演とフリーディスカッションを実施してきました。今回のコロキウムでは、それぞれが考えるロールモデルについて議論をし、3年間の総括としました。まず最初に、ロールモデル集にパートナーが研究者である男性教員として掲載されている理工学部物質生命理工学科の林先

生に体験を交えた研究者の在り方についてお話をいただきました。その後参加した教員や学生がそれぞれのロールモデルについて議論をしました。その中には現在所属している研究室の女性の先生がロールモデルだという意見も多くありました。現在本学の理工学部の女性教員の比率は6.8%しかいないため、もっと多様な女性のロールモデルの提示の必要性を感じました。



～ お知らせ ～
2011年度「理工学研究科
在学生対象意識調査報告」発行。
女性研究者
支援事務室
にて配布
(無料)



学術成果 発信支援

理工学部コロキウム、「グローバル社会に対応する女性研究者支援」プロジェクト主催 「欧州の研究環境と日欧連携の強化」

市岡利康氏（日欧産業協力センター「J-BILAT」プロジェクトマネージャー）

2012年01月24日（火）、日欧産業協力センター「J-BILAT」事業のプロジェクトマネージャーである市岡利康氏をお招きし、日本とEU間の共同研究プロジェクトに関する講演していただきました。本セミナーの目的は、理工学部の研究者を対象に科学・技術・イノベーションにおける日欧連携強化に関する情報提供でした。まず最初に自己紹介と市岡氏自身のヨーロッパでのポストドク生活や子育て体験、

続いて欧州連合の第7次フレームワーク・プログラム(FP7)の紹介と具体的な共同研究の方法について話されました。参加者からは「FP7を初めて知り、興味がわいた」「ヨーロッパでの研究生活に関して参考になった」などの意見が寄せられました。

※FP7は、欧州全体の国際競争力・技術力を向上させることを目的にヨーロッパにおける研究活動を助成する欧州委員会の主要な政策



意識啓発

2011年度 女性研究者ロールモデリング国際シンポジウム

「世界に並び立つ女性研究者たち～事業成果報告を踏まえて～」

2011年3月1日(木)3月1日、2011年度女性研究者ロールモデリング国際シンポジウム「世界に並び立つ女性研究者たち」を開催しました。プロジェクトの最終年度となる今回のシンポジウムは、過去3年間にわたる本学の女性研究者支援事業の成果を総括するものとして実施され、参加者は81名でした。

最初に女性研究者支援プロジェクトの総括責任者である滝澤学長から、3年間の女性研究者支援に関する挨拶がありました。

第Ⅰ部は、日本の女性研究者支援の現状と、日本より先に女性研究者のためのプログラムをスタートさせているアメリカ、社会主義国である中国を比較し、今後の日本における女性研究者支援の課題を考えていくことを目的としました。最初の講演者は文部科学省高等教育局長の板東久美子氏で、男女共同参画推進の必要性や他機関での女性研究者支援事業の事例を基に、大学に期待する女性研究者支援について話されました。次に、アメリカのNSF



(National Science Foundation) 東京所長のアン・エミグ氏が本国で実施しているADVANCE Programによる女性研究者比率増加のための施策と現時点での課題について説明し、今後は暗黙的なバイアスの是正、女性研究者の国際的共同研究の強化等の必要性を強調されました。最後に、清華大学教授の童愛軍氏による中国の女性研究者の活躍、NSFC (National Science Foundation in China) が実施している女

性研究者育成のための支援が説明されました。また、自身の研究者人生を紹介しながら、女性研究者のキャリアパスについて話されました。

第Ⅱ部は、本学女性研究者支援プロジェクト実施責任者であるユー・アンジェラ学術交流担当副学長(男女共同参画推進室長)が、3年間の「グローバル社会に対応する女性研究者支援」事業成果を報告しました。その後2011年度の第三者評価委員である遠山嘉一氏、有賀早苗氏、二宮くみ子氏、坂東昌子氏によるパネルディスカッションが行われました。その中で、上智大学らしい国際化に合わせたシステム作りが大きく評価されましたが、課題も見えてきました。さらに本プロジェクトが終わっても、女性研究者支援と男女共同参画推進を継続し続けることが最も重要な課題であることが強調されました。

最後に、男女共同参画推進委員長である山岡総務担当理事から、今後の上智大学の男女共同参画推進への決意が述べられ、シンポジウムは終了しました。



編集後記：

「グローバル社会に対応する女性研究者支援」プロジェクトは2012年3月をもちまして終了となります。今後は上智学院男女共同参画推進室が、これまでの取り組みを引き続き実施していきますので、これまで通りご支援、ご協力をお願いいたします。

問い合わせ・連絡先：

上智大学女性研究者支援事務局

102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1（10号館3階315号室）

電話：03-3238-4052 mail：wrsswg@sophia.ac.jp

http://www.erp.sophia.ac.jp/Projects/rsupport

